

500号です

PROFILE

氏名 広報おおやまざき
年齢 46歳
住所 京都府乙訓郡大山崎町内
特技 大山崎の人に愛されること
一言 いつもありがとう。これからよろしく。

今月の主な内容

- 広報おおやまざき **500号**記念 P2
- おおやまざき産業まつり P8
- 10月6日オープン!
大山崎町子育て支援センター P10
- お知らせします。投開票結果 P10
- 広域連合「京都地方税機構」発足 P11

vol.500

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp>

広報おおよまざきの 変遷の歴史を辿る

昭和38年7月15日

広報おおよまざき1号
記念すべき1号の広報。形態はB5版。配布方法は町内会・自治会を通じての全戸配布。

昭和43年5月25日

広報おおよまざき4号
昭和42年の町制施行後、最初の広報。形態はタブロイド版。しかし、この後すぐB5版に戻す。

昭和46年12月1日

広報おおよまざき13号
この号から本格的に月1回の定期発行となる。

昭和47年7月1日

広報おおよまざき20号
印刷色を、それまでの黒から緑に変更する。この後、この緑色が広報おおよまざきの定番カラーとなる。

昭和49年4月1日

広報おおよまざき41号
形態を、再びB5版からタブロイド版に変更する。この後、平成3年3月までタブロイド版が続く。

昭和53年7月1日

広報おおよまざき100号
創刊から15年で100号を発行。

昭和58年3月20日

広報おおよまざき165号
初めての2色刷り。なお、この頃は、予算と決算の特集を毎月の定期号とは別に発行していた。

昭和58年4月1日

広報おおよまざき166号
印刷色を、緑から黒に戻す。

昭和60年1月1日

広報おおよまざき190号
この号以降、毎年1月1日号の表紙と裏表紙をカラー刷りとする。

昭和60年10月1日

広報おおよまざき200号
創刊から22年で200号を発行。

記念すべき1号を振り返る

今から46年も前の広報とは、一体どんなものだったのでしょうか。その内容を振り返ります。

昭和38年度予算のお知らせがトップ記事。そのほかの主な内容は、当時9地区だった町内会・自治会の会長紹介、新幹線建設に伴う宅地造成完了のお知らせ、直前に施行された村議会議員選挙と村農業委員会委員選挙の結果など。さらには、今も「ひとつのこ

1号



100号



41号



13号

190号



昭和38年7月15日の記念すべき1号発行から46年。
 広報おおよまざきは、さまざまにその形を変えながら、
 今月、節目となる500号の発行を迎えました。
 その変遷の歴史を辿ります。

平成3年4月1日

平成5年5月1日

平成10年7月1日

平成13年9月1日

平成16年7月1日

平成18年7月1日

平成20年12月1日

平成21年5月1日

平成21年10月1日

広報おおよまざき275号
 周辺の市町村に先駆けて、タブロイド版からA4版
 に変更する。この後、現在に至るまでA4版が続く。

広報おおよまざき300号
 創刊から30年で300号を発行。

広報おおよまざき362号
 配布方法を、それまでの町内会・自治会を通じて
 の全戸配布から、新聞折込に変更する。

広報おおよまざき400号
 創刊から38年で400号を発行。

広報おおよまざき435号
 配布方法を、それまでの新聞折込からシルバー人
 材センターによる全戸配付に変更する。この後、
 現在に至るまで続く。

広報おおよまざき459号
 京都広報賞広報紙の部で、最優秀の知事賞（町村
 の部）を受賞。特集「定年は新たなスタート！」
 が高評価を得る。

広報おおよまざき489号
 京都広報賞広報紙の部で、最優秀の知事賞（町村
 の部）を受賞。特集「採れたて野菜はいかがです
 か？」が高評価を得る。

広報おおよまざき495号
 この号以降、表紙と裏表紙を毎号カラー刷りとす
 る。

広報おおよまざき500号
 創刊から46年で500号を発行。

なつかしのコーナー覚えてますか？



400号

300号



275号

今も続く長寿ものから、
 あっさり終わった短命も
 のまで。その一部を紹介
 します。

▼人登場 ある町民さん
 にスポットを当てて紹介
 するコーナー。54号から
 始まり、約半年間続いた。

▼こんにちは 町長の
 メッセージを掲載する
 コーナー。64号から始ま
 り、当時の津田町長在任
 中続いた。現在は、「町長
 短信」として復活。

▼役場の紹介 役場の各
 課の業務内容を紹介する
 コーナー。89号から最近
 の「いらっしやいませ」
 まで、形を変えながら断
 続的に続いた。

▼まちの史跡 町内の史
 跡を毎月紹介するコー
 ナー。103号から始ま
 り、「町の史跡散歩」など

と名称を変えながら、断
 続的に続いた。

▼サークル紹介 町内で
 活動するサークルを紹介
 するコーナー。109号
 から始まり、現在も「S
 mile」と名称を変え
 て掲載中。

▼わたしのふるさと 町
 民さんが自分のふるさと
 を紹介するコーナー。
 275号から始まり、
 わずか20回で終わった。

▼思い出スナップ 町
 民さんの思い出の写真
 を、エピソードととも
 に紹介するコーナー。
 275号から始まった
 が、ほんの数回だけで
 終わった。

▼友だちの友だちは、
 皆友だちだ 友だちを
 数珠つなぎして、毎月
 紹介するコーナー。3

489号



459号

読者インタビュー

読者の皆さんに、広報の印象や、これからの広報に期待することなどをお聞きしました。

広報おおやまぎきは、町を知るための一番の情報源です。

広報が届いたら、まず全体に目を通して、その後で特に目にとまった記事に戻って読み返すようにしています。広報おおやまぎきは、文章も読みやすいし、見出しもくだけた感じ。写真も多読ととも読みやすいです。ちょっとした雑誌のような感じで、気軽に読みかかれる感じが好きですね。

最近の記事では、新型インフルエンザや防災の関連記事を注意深く読みました。やはり自分の生活に密接に関連していることには興味があります。特に防災に関しては、自治会で自主防災組織の取り組みを進めているところなので、関心があるんですよ。

私にとって広報おおやまぎきは、自分が住んでいる町を知るための一番の情報源です。幅広い情報が載っているし、特集やお知らせ記事のボリュームもちょうど良いと思います。これからも今のスタイルを続けつつ、町内の新しいお店の紹介など、地元密着の情報も紹介してくれたら嬉しいですね。



中野 千恵三さん

NAKANO CHIEMI
円明寺小字宝本在住、61歳。

「ジュニアリーダー」に関する記事は、いつも欠かさず読んでいます。

僕は、子どもたちがさまざまな野外活動などに取り組む「ジュニア・リーダー」を指導する青年リーダー「ゆうやけ」に所属しているので、その関連記事が掲載されたときは欠かさず読みますね。去年の広報に、よく知っている子のインタビューが載って、すごく嬉しかったのを覚えています。

月々の特集記事では、今年4月号の長寿苑に関する記事が印象に残っています。以前、福祉活動の一環で、長寿苑に窓ガラスの掃除をしに行ったことがあったので、印象に残っていたんです。いろんなサークルで元気に活動されている高齢者の皆さんが紹介されていて、自分にとっては直接関係のない話題ながら、楽しく読ませていただきました。

新聞には、投稿された読者の声を紹介するコーナーがありますよね。読んでいて、結構面白いんですよ。広報おおやまぎきもこれに倣って、投稿やインタビューなど住民の声をもっとたくさん載せるようにしてほしいです。それと、月々の特集ページもカラーだったらもっと良いでしょうね。



村上 晃洋さん

MURAKAMI AKIHIRO
円明寺小字殿山在住、19歳。

タブロイド版だった頃より、
読みやすくなりました。

会社勤めをしていた頃、防火管理士に就いていたこともあって、「消防広場」のコーナーは今でも毎月楽しみに読んでいます。催しの案内にも毎月目を通すようにして、面白そうな催しがあれば広報を読んで参加することもあります。所属している長寿苑のピリヤードサークルが主催する大会の案内なども、広報に載ることがありますからね。

全体的には、読みやすい誌面だと思います。タブロイド版だった頃より、随分と読みやすくなりました。文字の大きさもちょうど読みやすいですし、最近表紙がカラーになったのも良いですね。

今後は、「TOWN TOPICS (町の話題)」をもっと充実させるなどして、町で起こっているニュースをもっと詳しく紹介するように努めてほしいと思います。町のさまざまな事柄の現状とか問題点なども、もっと積極的に広報していただくことを期待しています。



加田 宗次さん
KADA MUNETSUGU
大山崎小字尻江在住、87歳。

子育て関連の催しの情報は、いつも広報から得ています。

月々の特集記事と、催しの案内（「みんなの伝言板」など）には、毎月欠かさず目を通すようにしています。

親子サロン「スマイルブレイス」をはじめ、「親子でリズム」や「ベビー&ママストレッチ」など、

小さな子ども向けの交流会には、1歳4カ月になる娘（彩音ちゃん）と一緒によく参加するのですが、これらの情報はいつも広報から得ています。ずっと大山崎町に住んでいます。ずっがができるまでは、実はあまり広報を読むことはありませんでした。でも、子どもができてからはよく読むようになりました。今ではとても役立っています。

広報おやまざきは、写真が多く使われていて、全体的に明るい雰囲気なのが好きですね。最近表紙がカラーになって、さらに印象も良くなりました。写真からは、文章よりも雰囲気がよく伝わってきます。これからも、イキイキとした子どもの写真をいっぱい載せてほしいと思います。



後藤 有生さん
GOTO YUKI
大山崎小字茶屋前在住、23歳。

——広報担当者として、どのようなことを心がけていましたか？

堀井「第一に、読みやすい広報を作ることです。私が広報担当に就いた頃は、タブロイド版。すごく読み辛く感じるものでした。途中でA4の冊子型に変えたのも、皆さんに読んでもらいやすい広報を作りたかったからです。」

池上「私は、単にお知らせ版のような広報にならないように、面白みのある広報を作ること心がけていました。」

上田「確かにそれは大事ですよ。行政の広報は硬い内容になりがちです。人に面白いと思ってもらうためには、当然、広報を作っている人間が面白いと感じるものでないといけないと思うので、自分の感覚を信じて面白いと思えるものを作るように心がけています。」

池上「法令にのっとって業務を進めていく自治体の仕事の中で、担当者が自分の



池 上 了
Ikegami Ryo

総務課総務係主任。平成16年4月～19年3月までの3年間、広報業務を担当。

広報おおやまざき 500号記念 元&現広報担当者座談会

さまざまな失敗談から、今後の広報のあり方まで。

実際に広報を担当した者だからこそ語れる、広報おおやまざきのウラ・オモテ。
元&現広報担当者3人が、ざっくばらんに広報おおやまざきについて語りました。

感覚で比較的自由に進めることができる広報の仕事は、少し異質なものかもしれないですね。」

——広報を担当していて、特に印象に残っていることはありますか？

堀井「最初のころは、入学式などの式典で写真を撮影するとき、自分がどの場所に立っていいかわからず、やたら気苦労したことが印象に残っています。しばらくは悩みましたね。」

池上「顔写真を、別の人の写真と間違っで載せてしまったことがありました。印刷業者とファックスで校正のやり取りをしていたので、顔の違いに気付かなかつたんです。刷り上がった広報を見て間違いが見つかり、すぐに訂正版を印刷することになってしまいました。」

上田「やっぱり初めての取材のことですね。自治体の職員なら誰でもそうなのですが、広報に関して何の知識もない状態で『今月からあなたは広報担当です。』と言われ、『???』という状態で、どう写真を撮ればいいのか、どうインタビューしたらいいのかも分からず、すごく戸惑っていたのを覚えています。」

——広報を担当していて嬉しかったこと、良かったことはありましたか？

上田「当たり前前のことですが、住民さんに、『広報良かったよ』『あの記事面白かったね』なんて言われたときはすごく嬉しいし、次も頑張ろうという気になりますね。」

堀井「私が担当を離れた後の話

ですが、広報おおやまざきが、府の広報コンクール『京都広報賞』で知事賞を受賞したことです。受賞した広報を読み返すと、高齢者の特集や、地産野菜の特集など、住民さんのようすをしっかりと伝えていて、やはり読み応えがあります。それと自分が担当していた頃、他の自治体の尊敬していた広報担当者から『広報おおやまざき、この頃頑張ってるね』と褒めてもらえたことは、今でも覚えています。」

池上「私は、取材先で住民の皆さんと仲良くなれたことですね。取材先でお茶やお菓子を出していただいたり……」

上田「分かります！餅つき大会でお餅をご馳走になったり。(笑)」

池上「いろんな取材の機会に、年配の方からも『お兄ちゃん！』って親しく声をかけてもらいました。町民の皆さんと、こういう親しい関係を築くことができたのは、広報を担当していたからですね。」





堀井 正光

Horii Masamitsu

総務課参事。平成元年4月～10年3月までの9年間、広報業務を担当。

——失敗談はありますか？
池上「ある広報研修で聞いたのですが、文章やレイアウトは努力によってある程度向上するのですが、写真だけは持って生まれたセンスの差が大きいそうなんです。私は、取材である人物の写真を撮ったとき、背景が真っ暗になってしまい、そのせいで髪が爆発してるように写ってしまいました。そのときの方、本当に申し訳ございませんでした。」
上田「写真は、やり直しがきかないから怖いですよ。私は、人の名前の漢字を間違っただけで掲載することがあります。翌月号ですぐにお詫びと訂正を掲載しました。」
池上「私もその失敗はありましたよ。」
上田「もう1つ思い出しました。住民さんから出された原稿を、間違っただけで翌月に整理してしまい、本来載せるべき号で飛ばしてしまいました。『どうして載っ

てないの？』ってお叱りのメールが来たときは、焦りました。申し訳ないことをしました。」
堀井「広報が納品されてから、最終面のカレンダーの催しものが1週ズレていることが分かり、配付までの短時間に、課員総出で6,000部を手作業で訂正したこともありました。」
——特に苦労したこと、苦手だったことはありますか？
上田「校正作業が苦手です。元の原稿と記事を、一字一句間違いがないか照らし合わせていくのですが、本当に目が疲れます。」
堀井「取材がいちばん嫌でした。式典などの取材は一発勝負なので、写真を失敗したらどうしようとか。」
上田「当時はフィルムカメラだったので、余計に一発勝負というプレッシャーが大きかったのかもしれないね。」
池上「私も、写真撮影やインタビューなど、取材の現場が苦手でしたね。常に緊張感がありました。」
上田「あと、各課から出される原稿のバリエーションを取るのにも苦労します。シンブルに要点だけ書かれていて記事もあれば、やけに詳しい内容まで書かれている記事もあって。」
堀井「それは私もありました。原稿を少し削ったら、「そこは困るよ」なんて言われたり。」
上田「広報担当は、どちらかというと若手が務めることが多いので、先輩や目上の職員から言われると、どうしても押し切られてしまう面がありますよ。」
——最後に、今後、広報おおよまざきは

どうあるべきだと思いますか？
上田「この春、アメリカへ研修に行かせてもらいましたが、日本とアメリカの広報の現状は随分違っていました。アメリカでは紙媒体の広報は非常に少なく、皆さんインターネットから行政情報を得ていたのです。お年寄りも含めてです。日本では、近い将来そういう状況になるとは考えられないです。」
堀井「一昨年実施したアンケートでも、情報はどこから得ているかという質問に対する回答は、圧倒的に広報おおよまざきが多かったです。」
池上「パソコンは簡単に持ち運びできないのに対し、広報誌なら手軽に持ち歩くことができますしね。」
上田「これからも、しばらくは紙媒体の広報が主流であり続けるとなると、その役割は大きいですね。」
池上「役場の職員が減少していく中で、広報担当者も広報以外のたくさんの方を抱えています。単なるお知らせ版のような広報で許されるならそれで良いのかもしれません。」
堀井「今、大山崎町では住民との協働のまちづくりを進めています。住民の皆さんがまちづくりに参加するためには、多くの情報を得る必要があります。当たり前のことながら、住民の皆さんにさまざまな情報を分かりやすく伝えるということが、これからの広報に求められてくると思います。」
上田「自治体が発行する広報は、今はデジタル的にもすごく魅力のあるものに



上田 崇博

Ueda Takahiro

総務課秘書広報係主任。平成19年4月から広報業務を担当中。

変わってきていて、全国には、雑誌と変わらないようなクオリティの広報を発行している自治体もあります。」
池上「自治体の広報も、これからは、あの手この手を使って、読者である住民の皆さんを引き付けていかないといいませんか。」
堀井「表紙のカラー化に引き続き、広報おおよまざきもどんどん進化させていかないと。」
上田「新しい取り組みにもチャレンジしていきたいですね。また、これから広報を担当する職員にもそれを期待したいと思います。」



11月1日 10:00 ~ 15:00



おおやまざき産業まつりをはじめ
楽しい催しが盛りだくさん。

11月1日日は、役場周辺へLet's Go!!

おおやまざき産業まつり

ところ 役場周辺

▼いきいき農業まつり

○京都中央農協大山崎支店による物品販売

○京都中央農協大山崎支店女性部による展示・販売

○竹林ボランティアコーナー（竹プランターなどの製作）

▼商工会サテックス・フェスタ

天下取りライブ、一日商店街（模擬店）、シヨベルカー体験&おもいで新聞、餅つきコーナー

▼消費生活展

ところ 中央公民館本館2階和室

悪質商法などの展示・啓発

問 経済環境課（内243）

もうすぐ年に一度のふるさとのお祭り。
バザーで掘り出し物を探す？
お茶席でまったりする？
エネルギーなライブを見学する？
楽しみ方は、人それぞれ。
では、役場周辺でお会いしましょう♪



チャリティーバザー

ところ 役場周辺

▼ボランティアサークル「たんぽぽ」による手作りの小物の販売

▼障害児学童「ともだちの輪」によるホットコーヒー、お菓子などの販売

問 福祉課（内155）

大山崎町地域活動支援センター「やまびこ」バザー

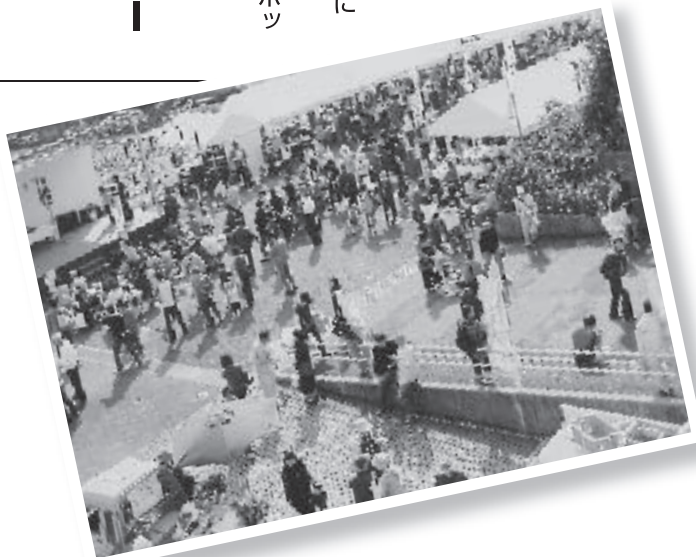
ところ 役場周辺

▼やまびこバザー

▼やまびこ保護者会リサイクルバザー

問 福祉課（内155）

今年から、物品の募集は行いません。
長年にわたり、心温まる品々をご提供いただき、ありがとうございました。





健康フェスタ

- ▼ところ 保健センター
- ▼フリーマーケット
- ▼展示
- ▼骨密度測定(定員100人)
- ▼ヘルシー喫茶
- ▼健康チエック
- ▼血管年齢測定
- ▼町民健康課(内131)

なごみの郷の催し

- ▼ところ ながみの郷
- ▼デイサービス見学コーナー
- ▼喫茶・占い
- ▼介護情報コーナー
- ▼社会福祉協議会
- ☎957-4100

大山崎町文化のつどい

- ▼ところ 中央公民館
- ▼一般住民の作品展示コーナー
- ▼お茶席(野点)コーナー(雨天中止)
- ▼生涯学習関係事業紹介・推進啓発コーナー
- ▼社会教育関係団体紹介コーナー
- ▼小・中学校「児童・生徒作品展示」
- ▼大山崎中学校美術部作品展示
- ▼大山崎中学校吹奏楽部演奏
- ▼ちびっ子大歓迎 人形劇「むむむ」
- ☎11
- ▼とき 午後1時～2時
- ▼問 中央公民館 ☎957-1421

京都第二外環状道路等 事業紹介コーナー

- ▼ところ 役場周辺
- ▼パネル展示
- ▼高機能舗装モデル、免震支承のモデル実験
- ▼的当てゲーム
- ▼問 建設課(内290)

明るい選挙推進啓発

- ▼ところ 役場周辺
- ▼めいすい君撮影会
- ▼明るい選挙推進のための取り組み紹介
- ▼問 総務課(内324)

消防コーナー

- ▼ところ 大山崎消防署ガレージ
- ▼消防車両展示・見学
- ▼住宅防火関係展示
- ▼消防団コーナー
- ▼問 大山崎消防署 ☎956-0119

住民フェスタ

- ▼ところ 名神高速道路高架下多目的広場
- ▼住民団体によるイベント開催
- ▼問 総務課(内315)

長寿苑文化祭(2日間開催)

- ▼とき 10月31日(土)、11月1日(日)
- ▼午前10時～午後3時
- ▼ところ 長寿苑
- ▼長寿苑サークル会員による展示・舞台発表
- ▼問 長寿苑 ☎957-1860



問=役場代表 ☎956-2101

10月6日オープン! 大山崎町子育て支援センター

問＝福祉課児童福祉係
☎956-2101(内157)

町では、未就学の乳幼児とその保護者が気軽に集い、交流できる場として、大山崎町子育て支援センターを中央公民館本館1階に開設します。センターでは、子育てに関する相談や保健師による健康相談なども実施しますので、どうぞご利用ください。

オープン＝10月6日(日)

※通常業務は10月7日(月)から

開設日時＝毎週(日)～(金)

午前9時30分～午後3時30分

※(祝)は休み

対象＝未就学の乳幼児とその保護者(親子連れに限る)

オープニングセレモニー

センターのオープンを記念して、セレモニーを開催します。多数ご参加ください。

とき＝10月6日(日)

午前10時～正午

ところ＝中央公民館本館1階

内容

①午前10時～10時15分

開所式

②午前10時30分～11時30分

講演「(仮)抱っこが秘める育児力」心を抱きしめる

～川中知紗さん(日本抱

っこ法協会理事)

③午前11時30分～正午

センター「自衛見学



写真はイメージ

第45回衆議院議員総選挙

お知らせします。投票結果

問＝町選挙管理委員会(総務課内) ☎956-2101(内324)

8月30日(日)に執行された第45回衆議院議員総選挙の大山崎町における投票結果をお知らせします。

投票結果

投票率 (小選挙区選 出議員選挙)	投票者数		当日有権者数		
	計	男		計	男
計	75.02%		計	12,626人	6,130人
女	74.94%		女	6,496人	
男	75.11%		男	4,604人	
計			計	9,472人	4,868人
女			女	4,604人	
男			男	4,868人	

※表中の数字は、国内と在外を合わせたものです

※投票率は、各投票区および期日前投票の投票者数の合計を当日有権者数で割ったものです。なお、比例代表選出議員選挙の投票者数は男4,604人、女4,867人の計9,471人でした

開票結果

小選挙区選出議員選挙

候補者氏名	所属政党	得票数
泉 ケンタ	民主党	5,077
清水 こういちろう	自由民主党	2,715
石村 かず子	日本共産党	1,457
岸本 こういち	幸福実現党	101

※このほか、無効投票など122票

比例代表選出議員選挙

政党など	得票数
民主党	4,009
自由民主党	2,268
日本共産党	1,423
公明党	569
社会民主党	441
みんなの党	387
国民新党	125
新党日本	84
幸福実現党	61
改革クラブ	25

※このほか、無効投票など79票

より一層の公平公正な税務行政を目指して 広域連合「京都地方税機構」発足

問＝税財政課
☎956-2101(内143)

京都府と府下25市町村（京都市を除く）は、税業務を共同化して納税者の利便性向上を図りながら、より一層の公平公正な税務行政を目指すため、今年8月5日に「京都地方税機構」を設置しました。

税業務を共同化します

京都府や市町村が個別に行っていた滞納整理などの徴収業務や課税業務のうち共同化できるものを、今後は「京都地方税機構」で順次行っていく予定です。

具体的な業務内容は、今後本誌などでお知らせしますが、徴収業務は平成22年1月から開始します。

どんな効果が期待できるの？

府と市町村が共同して事務を行うことで、スケールメリットを生かした効果を生み出し、徴収コストの削減と更なる税収の確保が期待できます。

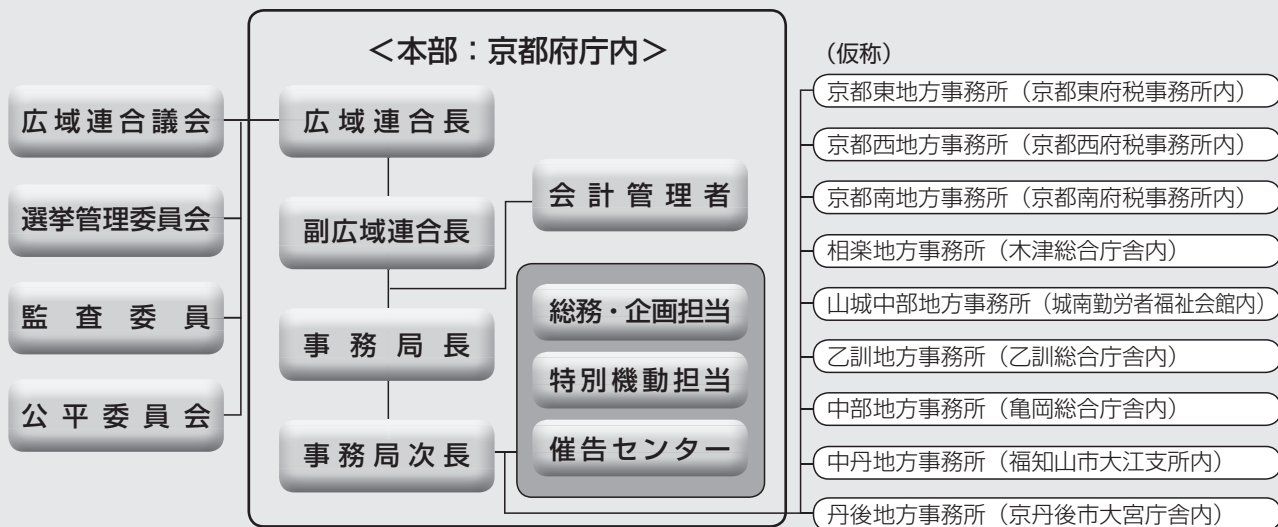
広域連合とは？

地方自治法で、特別地方公共団体として位置付けられ、都道府県や市町村が区域を越えて広域的に事務処理をするために設置する団体のことです。

京都地方税機構はどんな組織？

下図をご覧ください。

京都地方税機構の組織



地方事務所の所管区域

京都東地方事務所	京都市左京区、中京区、東山区、山科区	乙訓地方事務所	向日市、長岡京市、大山崎町
京都西地方事務所	京都市北区、上京区、右京区、西京区	中部地方事務所	亀岡市、南丹市、京丹波町
京都南地方事務所	京都市下京区、南区、伏見区	中丹地方事務所	福知山市、舞鶴市、綾部市
相楽地方事務所	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村	丹後地方事務所	宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
山城中部地方事務所	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町		